4340
2

4340
2

繪本黄金鯖貳之巻

造り物三間の間二重舞臺拵ふ〻大橋真理岩作の馬両人
衣裳上下ふく上役二重舞臺よこ張りよかつて在る所蓑形弱こ宝ヨ脇切
刀どこふ同く助よ実付在る所蓑法拵うみるど同く助同く赤り口羊如のあるて
雪蓑と称ど上在る下社の方よ小ふ毛冊平ふうるるどふいづれも衣れ者上
下ふく蓑道戸屋の間より獅お堂動ぶぼ白お入と様の毛鬘て長幕
一ふ外もの 丹平 一ふりおろふ 一ふ お旦那小狼藉ふるぐどど形さでもはやまめ形抱
ふさせぬで 一ふ 蓑敷ふ蓑よ切後左れ 仰 一ふ 俗を出示蓑 一ふ 俗ふ
手ふの切股をとめるのしや 一ふ 芝ふ 一ふ 黄蓑山の御用金二千両の長
いひ 一ふ 夜の業指の出ぶりの幕く 一ふ 抜ぶふふ 一ふ 其中抜く
あふ 長ふ蓑ふふ 仕場よ 蓑ひ向して 放ぶ 宝町夜への中抜よふふ

一切後とぬ　ト　[illegible]　其切後おすてあるを妻の生害おひろへとぬ
一やくなんと　ト　[illegible]　一姫君のためのと御お堂動解申度の事
とみ殿中を行男みて　一是へ御出らぬる　一園姫君の御孫但門脇殿
元忠ぐんと政所より御用をもとめ動解申打悪義病事付名代の式二
腰　一御用をとめ上位も同事　一うかせあとへ御通りあるまゝ
るべ[illegible]ト　[illegible]　一[illegible]とみ殿中沢る元忠殿の切腹なぜ
御器ぬる　一園姫君と御婚礼お[illegible]の御解者ゆうつて
拵ぬべ御はず書とを一大事ぬ[illegible]上のゆと御[illegible]とみが[illegible]
ゆりぬ　ト　一美濃守の御用金一万両の内三千両の不足の家を　一[illegible]
中沢ぐみうる　一[illegible]其金みを〇ゆり〳〵　[illegible]治小[illegible]
ぬの金を国元の御戸金と元[illegible]ぬ[illegible]

生ひおしと奏りの人用　一我ぬがぬ[illegible]ふるとぬを笑へぬぬふ　一天や御戸金
三千両と結つて御用金と　一[illegible]それ[illegible]や[illegible]利の[illegible]
[illegible]夜の[illegible]を集め故切情話中沢を　一天りやを
茶摘の家近ホイ　一[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
三[illegible]通[illegible]の手[illegible]と[illegible]
上[illegible]の御[illegible]園姫君と御[illegible]ひ[illegible]
しとおゆを逆をシテ[illegible]朗詠集をいぐとぬる　一[illegible]
一ト　朗詠集の家と　一スリや[illegible]ぬ朗詠集ト[illegible]
[illegible]の朗詠集を天ト[illegible]ぬ[illegible]
朗詠集を[illegible]ものとるホイ　ト[illegible]
のとぬ内[illegible]切後とぬ　一[illegible]切後の人ぬ[illegible]

「御若殿様にはさて切腹御用意とふ豆腐屋うろくこんて赤どくも
ゐ世話云々と成ぬと」「ハヽヽ当家の秘技の薬ふつゝゐろ比形紛若殿様に涙ぐも
其中に御の女よりひ弁ふうかる暗闇を三度いさあて引退く八度下のまひ百度千
度迄も秘蔵よたもゝ奈られ世話よ及んで彼方ゑく切腹とゝ比ふ分殿様
ことに切腹あるうと」「成程さあうあてそふかうゆるゞ約束まうる御室の次義も
でなるとうよんと其後は拝殿くゝ形紛殿様ゑんでゐる各近不忠でゝあまうも
「形」「其儀も拝者が加勢ゝ」「ある一旦若殿の御切腹あゝ室町殿の御ちんとゝふ
いの其上少く室の次義」「やゝそうゐふ忠よや」「ふゝゝゝ室の次義は有を
も孔さだを人よ切腹すむゝちゐんと思でゐまふうゝ人ようゝも毒立の
ゐゝひゐ殿の大ゝとゝ比ば今ゝのふ豆も室の義も皆我ゝゲ殿様と室町殿への
云法よ形紛殿と時御をあ方いさびよく切腹ふゝ」「形」「スリゝ室人のゝふよ形

紛と時」「我ゝよ切腹して」「ゝ人ようゝも忠義の切腹おゝよあ手拍とみゲ得う
てゐうふ」「形」「かそれゝ」「サア」「生」「ゝゝ」「金を拾ゝも忠孔のゐひ中ゝ」「おゝ孔の
毒ふ弁紛ゐ」「ムウ」「ト生」「ゝゝ」「ゝ」「ゝ」「

コリヤ上仗の御者しや知へく赤い
知へるとは仰せ〳〵よて
あなたが女分義姫さう出
行まいしや〳〵あなたのおさそ
そ〳〵とみなさのおひと
行り国姫と
一行国姫と
一道中よ出ぬて
ハテ
成程支度
対色へお供して
そ〳〵お供して
出つがえして
出ぬ〳〵あなたの
デモ〳〵ハテ
知へるとは仰せ〳〵よて
あなたが女分義姫さう出
行まいしや〳〵あなたのおさそ
そ〳〵とみなさのおひと
行り国姫と
一道中よ出ぬて
ハテ
成程支度
対色へお供して
そ〳〵お供して
出つがえして
出ぬ〳〵あなたの
ト
ハテ知へるとは仰せ〳〵よて
あなたが女分義姫さう出
行まいしや〳〵あなたのおさそ
そ〳〵とみなさのおひと
行り国姫と
一道中よ出ぬて
ハテ
成程支度
対色へお供して
そ〳〵お供して
出つがえして
出ぬ〳〵あなたの

の系物さ
ト後切とする義姫
久
とうけ出
行ぬ〳〵
一コレ
一其盗賊
肚根と
く知さ
写ラナ
系物さ
ト後切とする義姫
久
とうけ出
行ぬ〳〵
一コレ
一其盗賊
肚根と
く知さ
写ラナ
一いろ〳〵と
一行しやせコリヤ
一女房たに
一奉ひろへせ〳〵国姫
一行ぬ〳〵
一大死
一国姫
一盗賊
一縁組
一追ひ
一いろ〳〵と
一行しやせコリヤ
一女房たに
一奉ひろへせ〳〵国姫
一行ぬ〳〵
一大死
一国姫
一盗賊
一縁組
一追ひ
一いろ〳〵と
一行しやせコリヤ
一女房たに
一奉ひろへせ〳〵国姫
一行ぬ〳〵
一大死
一国姫
一盗賊
一縁組
一追ひ

○此所の面のうけあくこまるん
もーつこと
へ命の程はをゝまちん
せんト
○なこまる
さいとう
斎藤
館の
ぐちん
同之助

ふじ郎
歩たろう
鳴子

「そりゃとみな百姓月之助が母おそくとふ美へてなけれども御上様のお河童殿とぞのく
御疑ひ「政五郎のやうなとあん板切あんばとする」「美作さま」「お房退り様の」「仕切板
「生こ宵をれば姫君の御行衾が知るう」「ヤ何と」「御内儀様と遊れさまとお
疑ひのうつさ君百合を切る姫君と奈良茶ばまし歩き茶屋つとうと浅茶とこぶとをつを
亟蓋の切板はひもぬぞ」「スリヤ死るゆも」「死れぬう」「おイ」「せんべんあせ」「イヤく
そうとみな神武の紋も朗弧紋も姫君なも外さんばと振紋を放外さんとや
御疑をお源やく」「ヤあんと」「足利家の姫君なま義両の御腰れを仮動
るもぬ作武等悪公御眼病を付延ろう乃ふ故歩君傷つとや付盃を乾し
内侍公淀りあくお源ごれば御猫の切ふ若ぐ君を上姫君の御みて家へ出ち
とみが紛さある」「ヲスリヤ」「ヲ仕めとぶ姫君のあ二郎知つくみうくんとくごれが
ぐふいろふが御猫の切ふ切ふい舞君と御ゆ君をさせ歩めンテ

御内侍公お源ごゆぐるうあ」「そゆ君を義姫御侍公をお源さでのうあふ
義姫」「大指でみうある御侍公をお源ゆ」「御盃を」「二度、」「美作なれうい君を」
御盃を」「弥義仕ちふ祝けと盃を出せ」「あゆぬ世君美へをみうゆぬで
「ふれお宵流の立宵をふあて祝け亀さ連煙の盃」「行でみうゆう美作の如ゆ
の猫様とと人くおごらくあ手をとふく亀とゆうとうふうーくと安と足利の
お姫君と御侍公とあくくを余う勿体ふ美でうあう」「イヤとがけううーゆうふ
弥義流なるふち祝けあいものが美流がそれとおつーゆものう手君をあゆ出ぬ
とい奴ゆ」「そゆがく悪く侍ーを立ひうぐくそうめいて」「合点トウく
トあ人立くふる」「コレ両人とも立流ぬいで立美作の御上様のあゆ」「デモ」「おくみ
しふで」「そい生」「ト叫ゆ美作と義姫とうふうふ」「もうう行武ゆうぐ」「これゆうう
沃立ぬふ四郎の系く立頃くく云上様ゆ」「ゆく」「ゆく」「お和く家い手を紀とう

上位の役目ナニそとゝみ屋此場の絵うゐ行と思ふこゝろ
あり申つゝく此場の指よ此の指をもぬ三千歳のふるく若殿目之御国姫君と
よ家さそ盃の義もとゝと孔しそ義六い迫ふや法殺さ色狂ふ御若男あこ
お二方ふち若悪敵山のる迫若殿今とゝみよふ敵ふやさまちうるべ
みづさふ家ふる　さゆうあてそ目屋の御縁法を頂ひ外ふん　スリや法久
るも山殺よ　ゝゝ人百日千日でもまを孔をゞ上位の役めさ　いさゆうるべいう
ゆう先　ハゝ女さうゝて身うゝれぬとゝ迫孔のゝとゝみ屋朗源集の法と孔し
手の盃も　手仕も角もゝうゝと各古九御難法　ゝゝそれゆでゝ若殿
ふく上位の御孔先　ゝとゝみ屋　お二方屋　まづ御入あるまゝ外ふト云よあるる
ゝ殿ゝゝ屋ゝゝ目ゝ御歩ゝ孔法殺ゝ新ゝ孔ゝ入孔よ　ゝゝとみ屋孔ゝゝ目のゝ人ゝ
一仕年命の　おいゝ目ゝ　ゝりゃあるゆふ　ゝゝもふ見の科出よ　手若殿屋

との御祝会結ひびあふ那若屋殿ゝゝゝとゝみゞ七
ち迫文姫よ手ゝちゝちふゝ法義ゞあ孔ゝ孔ゝゝトこる　ハゝトあゝ
ひゝゝ　家門ゝふ殿ふ老搭ゝ孔ゝゝゝゝ孔ゝ孔ゝ孔

そうやどーらふいふ男事どやへト世て　歩　弓さつまあたせやうよぬうをで出かうさ国
あぶうう四さうふ　義　何ーどやそんちあからーふ　歩　我もそうちあて男事をさんと
れんがゆーあぶ背若よしゆーあむつう　義　男事をさんとあーめしてもついらんがいる
ぎうふ弓あとふあと国の義よ　義　命下の技場松　歩　ハテとうーさ事であつふナア
トあんをと紙いろくこはあーこ吳よりもと　歩　結ちらふト道命を　歩　こ子ぶ
そうぐうく仏ふとすり歩方系門えてとる　歩　つうむ
これをぐあぐく　義　コこめうさうふ事さーんをちあうう　歩　大事ふく　歩　大事あ
ぜこりや弓性と何とする　歩　演義をとるあ　歩　ちとあ　歩　指務かぬ
うせーーと何事どや　歩　さ切あ服義と　歩　事ひえまきをえのがくさうとふうぬが新
え付ろんぐ夜茶茶室をふあて服義分の技をとゆうけ出そふと考さ知ぐると何で
うぬを笛ぐそーさ　歩　イやサそれそ　歩　ヤ終ん出とうさ方あ技よぬをぐよーー湯ー
ちゅうろぐとうーー数をゼト積　歩　アイタ　歩　ーーー

トおさへてあん
あらうとそろ　チョン〳〵ふて返し

造り物二重、蓬莱、鬼面、ふ一面の世良左仲坂一面の金襖、光々蓬の作りとみ
香盆、ふ麦焼、このせ麦、ときいて赤ふ、えへと発ふ弥義次、とつ〳〵ふ、ふ、て

赤ふ、えへ〳〵　道具帰る

一ふ、ふ、ふめづ、しけまど、新ふいつも初きの心地ふ、ふ、名
青ふ、初きとのふ、ふ、ふ、

其後のがれとうとう成人の末方で可愛らしい女房を拵て暮くさう男めを
これ　ふびんがらるゝ事でもあるまいと思へば後ゲ手〳〵何がもやうのふくさいさうそう
切りつめよと切て捨りゆう〳〵用もどうぞあひたいとあひ願ふと今日の
お仕着の着代も変ひふむそうふ盗てもろふて暮さもれと宮仕いやであるあのふ
〳〵行もく〳〵いやでもるけれどもふら金と捨と義とんとあれでサア行そこもあ〳〵あこ
分ふと勘解由分とやまこさ〳〵〳〵其のあるあが大それさうあのふ事とといひ
出もうこもけて貴ハうやあ〳〵めでやまやあるふてれもとこりやお嬢とあ
じゃ宮めく物あるこいやでめつものふト思ひ　サア　いやでもるけれど〳〵なけれど
ま〳〵もそろとふのちへるあのふなふ初むらふへト引　考る　はマア　まのつめこいまるこハ
のふこ〳〵ぐらてあてやらふらのふト思ひ義ぐほどちこみが嬉くる　けへこゝろこあや
成ぬでや〳〵サア〳〵何でも叶へ〳〵よ所ぐが何ゝ義がひせうふのぼさて息がとづんぐ

成年でもあるん〳〵きまうのぼをさとろく〳〵やらあるこの孔へこうがはをとうふ人く
ト思ひ義ぐが独ようこ〳〵　そもあるこの者中ふ何ゆゝあんもりここあるハトふひ入思ふ
〳〵ゆゝこりや何でもあるこ所め〳〵かゝるゆゝ
成こゝこれ物のひゆゝアゝこぐこゝこうこ〳〵を賜ゆゝる〳〵　嬉ひハ技こぬがあ
こんとこ孔あのふ風服分の何めのと拙者ちと弟義家のまこ者あるゝこゆせべ
〳〵義こ上下の間ちあ〳〵　それ程をふおつ〳〵ゆあゝ井まハ物でもかけれど
勘解由様よりえるくもつ〳〵ゆ何拙云がふゝこふ者ゝ井〳〵ゆこ拙云ハ
ト思ひ入　寄で分文の盃〳〵ゆこう〳〵　コリやあ〳〵ぐんドン〳〵ト二人の間よりてし　サアお
あぶり〳〵成ぬぐでこるれば従云の盃をあ房が呑ぐ〳〵　殿ゆくさんがおこうゝ
さんでや〳〵義こ上ふトたゝこのこ深義ゆこ義ゆこ　あつよおゆ井松こ義〳〵　コリてまつ
ゝこきよかるゝこの手〳〵　そんあゝ何めゝ拙ゝ国出度分ゝトの〳〵　コリやぐ暮さ

ちのふおさへ作ふ　兄ちさえあやさへ兄盃　兄盃こちさきまかる夜めてさも

改ゆ手ふ　トゆ手ゆ　つゆで春　兄下の沒めて　トつぶとる作義とれて　南こ

が　兄　兄　兄

ものゝ[illegible]ト[illegible]チヨウ[illegible]

送り物みえの奥方備る歌新上下中く奥ゆかしくてかのうちとみ後の

すゝ紙ひろくてかる侍る花瓶より梅の枝を生ぬきつはりしとおもひて[illegible]

「[illegible]みなこんぐわんに家おくをしらぬ」「新部屋住ゝ中の者和者

連歌の一首なんぞ此様よりはすんでいる殺くの主をふせんとそれ迄ちむとすげ家

五月雨もさびどころの[illegible]「[illegible]」

新歌奇の[illegible]他諸教白もそ[illegible]

[illegible]「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]」

「[illegible]」

分の賢くるの者ヘ「ちとみるめと」ト流上うくるを見うてちとみるめと
切者ちつの事後悔者ちちの者型おしゆう敬
ちとみて「ちとみる後人京と言ふ者ちみて「後ハ南よふ入くるが客出る「ちとみ自ふも後
人と「ちとみてよふ入出神文「ニテ若殿の御前の上ハ「姫殿の御行粧初るとを見
紅殿「日延の恥ト「ちとみ自レテ今日のナ伏を「又人の後人仕出
きて出場よふ入客出と神文「スリや弁義家の後を待居るナ伏ハ「ちと云伏い
「我ら」ト切後ちとる「切後ちとる人出家人切ても右手ふ「右手ふいとを出法
の一云「主君の家と押伏せんと非ひと立む客出と神文ト深のてんせる久るる「後ハ
扨若を出場の拍子「武神文ハそちらよち者ト「ニテ我ら絡ちて「姫
若の西家ともあ再び連理の意をそれ其客出とちべよト歩ちちが打ちる「扨
客出を出ち「お紅葉と「いつれも去ちおれ給ナ「ニテ宝町の御前ちを「ナ伏を
武家出形紙「遣りしあるの縁「南無三それを「ト丸よくるとを出ちを直理
久るとを手ふ切りけり

「いつれもまあ「ハウ「ト「ニテ和歌「若ともじやち「西久
遣り物一面の草出と小倉塩の手及ふ稲荷後浅黄幕「石知入ふて遣を置
「花ちとうを紅列をぶ「ちをかナ勢「ふあり「出ち「徒而て
「赤物ちを「ハウ「ト「赤物の肉ち「兵部と出「「西ちを分ちあうを紅ちち「結「西知結ち弁
てちうある「小倉塩の夜塩と変ひト「ちふハ「ト「生ちふ「紅ちち
列ちて後ハ「ち入ト赤面ちう旅人大ぜ「仕出「ハ内ち今御出「ハるぜの御
まとちをみだちを照ざ「ちとしちとちとちう西国ち者のすぐちちちちちち出ち
「ちふ「稼べちのが今ち後ち「ちち者ふ後前ちちちちふ「ト「ちぶちて「こりや「お月さ西が
出やちまぶちふまちちよりちちドりや「ちふ「ちを「ナ七ふト又立ちちふ「今御ちちちぬ
たちちちのちちちちち

なでおんじゃうヤ　ヨリヨクコレハ旅人ハ知ラズ　何ヲ
たゝき仙蔵者でおんじゃうヤが山城の国京ゆふ松さうとうあをぐいとつんくゝさと
それなアにゝどれどもこつん出ーヤでおんーゆうヤを　ヨサ見たゝる九州者じゃア西の
おかつさんとおろくゝヤて見りゝ津の国の大坂とゆふ土有の繁昌の地ゞアンヤさふ
とゝるゞ福ゆうヤこゝを　そんゆゝ津ゆやアれ見者ゞふ　沖て夜ゝ東国
者ゞじゃケン　ヨサ此ゝも変海山とゝてゝあてもかん京大坂　アんヤさふと行
ゆうヤとゝろを西国　うんたん東国者　男らゞ家ゝ業ゆヤて　旅のたかゞ
とんでもふん　おりゝふ身くよりゝ　ハゝ　ゝ　ゝ　ト　あん　コヨ
評ゝヤとあケン　ゝとふゝゞのト　あんゝ此のゝとあゝ
ゝおゝら　ト　あん　ゝ　ゝ　ゝ

杉木金助

素貞寫

（ナニ）とんぢ〳〵とうれびあさえ社準四海とゆびるものひくもあ〇〇〇〇〇〇〇〇
ゆうとうもるぐふ武ア〇〇〇〇〇〇〇〇

麻衣龍眞

春好画

大坂
阿内太郎
太助坂

玉榮堂